



「偶然」について

この5月号が会員の皆様に届く頃には、ゴールデンウィークはもう終わっていると思います。ゴールデンウィークといえば、今年は9月にも5連休があるということで、昨年末からマスコミでも取り上げられているのを見かけます。21日（敬老の日）と23日（秋分の日）の祝日に挟まれた22日も休日になることで5連休が可能となったようです。暦の上で9月に5連休ができるのは初めてではないでしょうか。近年の祝日法の改正によって実現したのでしょうか（ちなみに、フジテレビで放送されていた「トリビアの泉」では、5年前にはすでに、今年の9月の5連休のことが取り上げられていたそうです）。9月は学会シーズンですので、「5連休だ!」といわれてもピンときません。分析化学会の年会も24日から予定されていますし…。

出だしからゴールデンウィークの話になりましたが、私は小学生の頃、カレンダーが好きでした。なぜ好きだったのか、何がきっかけだったのかは全く覚えていません。今振り返ってみると、7列に規則正しく数字が並んでいるのが好きだったのかもしれません。単に数字が並んでいるだけではなく、一番左（カレンダーによっては右）が必ず赤であり、そして所々真ん中のほうにも赤の数字が見えるというのもよかったのだと思います。

カレンダーや日にちに関して思い出しましたが、私と私の父、父方の祖父の男3人は、毎年の誕生日の曜日が同じです。また、私の妹と母、父方の祖母の女3人は、これも毎年の誕生日の曜日が同じです（男3人とは別の曜日です）。6人とも1月、2月の誕生日ではないので、閏年に関係なく一致します。「だから何?」と言われればそれまでなのですが、カレンダーや日にちが好きだったが故の発見だったと思います。全くの偶然ですが、子どもの頃は感動しました。もっとも、家族全員の誕生日の日にちが一致するという奇跡に近い家族もあるのかもしれませんが。

誕生日に関して言えば、こんな話もあります。「昭和33年3月3日生まれの人、平成3年3月3日に33歳の誕生日を迎えました」。これは、当時（平成3年）高校生だった私が新聞の投書か何かで読んだと記憶していますが、20年近く経った今でもなぜかこのことを覚えています。最近、改めてこの3並びのことをインターネットで検索してみると、似たケースがまだあることを発見しました。大正7年7月7日生まれの人が平成7年7月7日に77歳になったというものでした。平成7年には話題になっていたと思いますが、大学生になっていた私はさほど興味を示さなかったようです。しかし、やはり!この3並びも7並びも「トリビアの泉」で放送されていたんですね。

これらは偶然の一致の例ですが、私たちは普段生活していて、いろんな「偶然」に遭遇します。もう何年もご無沙汰だった人にバッタリ出会った、スーパーで買い物をしたら支払いが税込みでジャスト1,000円だった（私は実際に経験があります）、などなど。シチュエーションや種類は様々だと思いますが、かなり低い確率で思いがけずに目にする「偶然」は、多くの場合、程度の差はあれ、喜びや感動を与えてくれます。

分析化学の分野では、実験結果・測定結果の信頼性が重要となります。一度限りのデータでは、偶然出た結果なのか否かが評価できませんので、繰り返し実験・測定を行って、再現性を確認しなければなりません。何度か測定を重ねて検討した結果、一つのデータだけ他と大きく異なってしまった場合、それは偶然出た結果として判断されるでしょう。それが好ましくない、使えないデータであったとしても、その原因は考えておく必要があります。きちんとした解釈を行うためには、やはり、その実験や測定装置の原理や特性などを理解しておくことが重要です。機器分析の装置がブラックボックスに近いものになるという懸念はずっと言われていますが、学生に理解させるようにしっかり教育・指導しなければなりません（と、改めて思いました）。なお、ここで言う「偶然」は、厳密に偶然誤差と系統誤差を区別して使っているわけではありません。念のため。

偶然出た結果が、一連の研究の中で狙っていた（想定していた）ものでなければ、その研究を進めていく上では不要になるかもしれません。しかし、偶然出た結果から新たな研究が始まる可能性もあります。大きな新発見は何気ない偶然がきっかけとなったというケースだってあります。そう考えると、「これは偶然出た結果だから。」で簡単に片付けてしまわないほうがいい場合もありそうです。直接のきっかけにならなくても、偶然の積み重ねで新たな展開が見えることもあり得ると思います。極端な話、「偶然」は実は「必然」なのかもしれません。その可能性も考えながら研究を進めていくことが大切だと思います。

何だかまとまりのない話になりましたが、日常生活や研究において、今後何度も遭遇するであろう「偶然」を楽しみたいと思います。今日はどんな「偶然」があるのかな、それとも普通に一日が終わるのかな。でも、そのようなことを考えている時点で、もはや「偶然」ではなくなってしまうですね。

今回のエッセイは、科学警察研究所の鈴木康弘博士にお願いしました。

〔熊本大学大学院自然科学研究科 松浦博孝〕